

第 2 日目 2021 年 9 月 5 日 (日)

午前の部 10:00~12:30

テーマセッション (3)

全国家族調査 18 質的調査にもとづく成果報告

オーガナイザー：木戸 功 (聖心女子大学)

司会：松木洋人 (大阪市立大学)

討論者：平山 亮 (大阪市立大学)

【企画趣旨】

このテーマセッションでは、2019 年に量的調査から協力者を引き継いで実施した質的調査 (NFRJ18 質的調査) によって得られたデータ (語り) を用いた研究成果を報告する。全国家族調査としてははじめての試みである NFRJ18 質的調査によって、現代の家族をめぐる諸問題に対してどのような接近が可能であるのかということフロアを交えて議論すること、またそれをふまえて、本調査によるデータを活用した研究の活性化を促すことをねらいとする。

第 29 回の本学会大会テーマセッション (第 4 回全国家族調査 (NFRJ18) -特徴と現状-) において、NFRJ18 質的調査のねらいや概要に加えて、実査開始の直前までの進捗状況について報告したが (木戸 2019, 松木 2019)、今回はその後の実査の開始から終了、データの整理、そして本研究会メンバー内でのデータの共有までの一連のプロセスについてまずはふりかえる。

その上で、多様性班、高齢者班、子育て班、結婚・ワークライフバランス班の各班より報告者を立て、本調査データを用いた研究成果を報告する。これら 4 つの班は本調査におけるインタビュー調査に際して、メンバーの関心領域にもとづいて編成された作業班である。研究会全体で共有した調査の共通項目 (家族をめぐる生活史) に加えて、それぞれの班における調査項目を設定して調査に臨んだ。実査に際しては、それぞれの調査項目を踏まえた上で、班ごとに調査協力者の選定を行った。

今回の報告では、NFRJ18 質的調査のインタビュー調査によって得られたデータ全体ではなく、班ごとに収集したデータが用いられている。各班からの報告はそれぞれの班を代表するものではなく、報告者の関心に即したテーマが設定されている。質的調査、ケア、ジェンダー等の研究に通じたコメンテーターを含めて、本セッションにおいて活発な議論が展開されることを期待している。